

平成23年度

事 業 報 告 書

(平成23年1月1日～平成23年12月31日まで)

社団法人 競走馬育成協会

平成23年度事業報告

I 概況

平成23年度は、東日本大震災をはじめとする自然災害などが続き、亡くなられた方々に深い哀悼の意を表するとともに、当協会会員をはじめとして被災された皆さまへ心よりお見舞いを申し上げます。また、被災地の迅速な復興をお祈り申し上げます。

さて、平成23年度通常総会において、ほぼ四半世紀にわたってご先導頂いた小沢一郎会長が退任された。この間のご指導につき、会員一同、深く感謝の意を表するものである。次いで、3月末に臨時総会・理事会を開催して第4代会長として武田暁朗会長を選任した。

このようななか、平成23年度も引き続き、会員の育成技術の一層の向上に資する事業に重点を置き業務運営を行うとともに、競走馬業界における人材養成支援に積極的に取り組み、牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」の運営、「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」、「牧場体験会」等を開催した。更に、協会のあり方についても公益社団法人への移行を中心に広範に検討を進めた。

II 事業の実施状況

1. 育成技術表彰事業の実施について

会員の育成技術の向上を図り、丈夫で強い馬づくりを目指した競走馬育成の健全な発展に資するため、日本中央競馬会から助成金の交付を受け、引き続き育成技術表彰事業を実施した。会員の育成技術の向上を反映して平成22年度とほぼ同じ水準の表彰件数となった。(表彰対象者13P別表参照)

また、施行場における育成者表彰も、2歳ステークス競走6競走を対象として行われた(実績：当協会会員5名が表彰を受けた。)

23年度 の実績	対象競走数	表彰件数	該当率 (%)	22年度 表彰件数	22年度 該当率(%)
新馬競走	267	184	68.9	199	75.1
2歳重賞競走	15	13	86.7	11	73.3
障害重賞競走	10	0	0.0	0	0.0
他の重賞競走	113	16	14.2	6	5.4
3歳オープン競走	73	16	21.9	14	19.4
計	478	229	47.9	230	48.5

2. 育成技術講習会の開催について

競走馬の育成・調教に関する経営・飼養・衛生・環境管理及び馴致・トレーニング法等の知識や手法について普及・啓発を図り、丈夫で強い馬づくりに資するため、前年度に引き続き育成技術講習会を開催した。

平成23年度においても従来どおり、日本中央競馬会、財団法人軽種馬育成調教センターとの共催として下記のとおり開催し、多数の会員・関係者の受講参加を得た。

支 部	開催月日	開催県	講 演 名	講 師
東 北	7月6日	青 森	市場等における馬の引き方・展示の仕方	JRA 馬事部 土屋武主査
			軽種馬の疾病と衛生管理 ～繁殖牝馬と若馬について～	軽種馬育成調教センター 吉原豊彦調査役
九 州	10月3日	鹿児島	市場等における馬の引き方・展示の仕方	JRA 宮崎育成牧場 秋山健太郎係長
			馬の調教について ～馬の性格判断を行った上で 悪癖等を矯正する方法～	カワボト・イアツプ ランチ 宮田朋典代表
関 西	10月13日	滋 賀	馬の調教について ～馬の性格判断を行った上で 悪癖等を矯正する方法～	カワボト・イアツプ ランチ 宮田朋典代表
			競走馬の取扱いとその背景 ～引き馬と展示～	JRA 日高育成牧場 石丸睦樹業務課長
関 東	10月19日	茨 城	馬の調教について ～馬の性格判断を行った上で 悪癖等を矯正する方法～	カワボト・イアツプ ランチ 宮田朋典代表
			競走馬の取扱いとその背景 ～引き馬と展示～	JRA 日高育成牧場 石丸睦樹業務課長

育成技術講習会の受講者数の推移

平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
164人	164人	198人	234人	449人

3. 軽種馬経営高度化指導研修事業の実施について

軽種馬経営の安定につながる将来の基幹的技術者の確保及び高度な知識技術の修得の支援のため、引き続き、生産育成技術者海外派遣研修事業、修学奨励金交付事業、生産育成牧場就業者参入促進事業を行った。

(1) 生産育成技術者海外派遣研修事業

会員の軽種馬育成に関する高度な知識・技術の習得を目的として、生産育成技術者海外派遣研修事業を前年度に引き続き実施した。平成23年度は、財団法人軽種馬育成調教センターから推薦された3名をアイルランドの研修機関 RACE (Racing Academy & Centre of Education) に派遣した。

また、平成22年度から実施している3ヶ月未満の短期研修については、6泊7日の行程で米国(競馬場、育成牧場、セリ市場など)に13名を派遣した。

(2) 修学奨励金交付事業

平成22年度から開始した本事業は、財団法人軽種馬育成調教センターが行う育成調教技術者養成講習に平成23年4月入講した2名に対して、奨励金を交付した。

(3) 生産育成牧場就業者参入促進事業

平成22年度から開始した本事業は、牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」、「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」に加えて、新たに「牧場で働こう見学会・夏休み牧場で働こう体験会」を主要な柱として当協会を事務局とした、競馬関係5団体(JRA、JBBA、BTC、競走馬協会、当協会)で構成する牧場就業促進事務局が運営した。

1) 牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」について

就職先としての生産育成牧場の認知、牧場での仕事に関する情報の提供を目的に平成22年度に開局したウェブサイトは一層認知度が向上し、アクセス数が飛躍的に向上した。

平成23年のアクセス数	302,502	(平成22年	201,100)
平成23年延べ利用人数	64,524	(平成22年	48,400)

2) 「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」について

競走馬生産育成牧場等の業務を紹介し、牧場関係者と直接対話できる場としてのフェアは、7月27日に東京競馬場で開催され、17牧場が説明ブースを設け、450人の参加を得た。

講演等：白井牧場社長 白井岳氏、JRA 調教師 角居勝彦氏
JBBA・BTC 研修案内、日本装蹄師会による造鉄実演
研修相談コーナー：日本軽種馬協会、軽種馬育成調教センター、
日本装蹄師会、静岡農業高校、軽種馬青年部
その他：厩舎作業体験、乗馬体験、競馬博物館見学

3) 牧場で働こう見学会・夏休み牧場で働こう体験会

① 牧場で働こう見学会（関東地区4月2日、関西地区4月9日）

	会場	中・高校生	保護者・教諭	計	申込者
関東	シンボリ牧場	15名	10名	25名	51名
関西	宇治田原優駿牧場・信楽牧場ほか	20名	12名	32名	46名

② 夏休み牧場で働こう体験会（8月21日～8月26日）

下記のとおり、開催した。

参加者：15名

場所：北海道日高地域（拠点：浦河優駿ホースビレッジ AERU）

研修先牧場：杵臼牧場、辻牧場、様似堀牧場、まるとみ富岡牧場、
ビクトリーホースランチ

協力機関：JRA 日高育成牧場、軽種馬育成調教センター、
JBBA 静岡種馬場、社台スタリオン、AERU、BTC 卒業生

4. 2歳育成馬トレーニングセールスの推進について

会員の育成成果を公開する場でもあるトレーニングセールにおいて、その開催後援等により市場取引の活性化を図ることとしていたが、これまで後援していた「ひだかトレーニングセール」は開催されなかった。

5. 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業の実施

競走馬の育成を行う者の、育成環境改善及び育成技術の向上に資するため、育成経営の基礎調査の取りまとめを実施することとし、平成10年度から平成22年度の基礎調査（アンケート調査）のデータ整理を行った。

なお、引き続き取りまとめを継続実施している。

6. 育成施設等の整備に関する助成等の実施

(1) 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設等の整備のために会員が借受けた軽種馬生産育成強化資金の利子負担の軽減を図るため、財団法人全国競馬・畜産振興会から助成を受けて、引き続き利子補給事業を実施した。

平成23年度は、8件の問い合わせがあったものの利用実現に至ったものはなく、継続4件について利子補給を実施した。

(2) 畜産環境整備リース事業

家畜排せつ物を適正に管理をするための施設・機材を、財団法人畜産環境整備機構から借受けた2件(堆肥舎ほか)について、引き続き会員に再貸付を行った。

(3) 競馬関連機材等有効活用事業

日本中央競馬会等で使用を取りやめた競馬関連の機器及び資材について、再利用を希望する会員に対して斡旋を行う事業であるが、平成23年度については該当する機材はなかった。

(4) 畜産リース事業

財団法人畜産近代化リース協会が行う畜産リース事業について会員の申請事務を代行するものであるが、平成23年度については会員からの申込みはなかった。

7. 育成情報誌発行事業の実施について

当協会の主要な行事、育成技術等の情報を提供するため、引き続き機関誌「いくせい」49号を発行した。

8. 協会組織の拡充強化について

(1) 会員数について

新規会員の入会勧誘に努めたものの、加入者は2名に止まった。一方、育成牧場の厳しい経営環境、経営者の高齢化、原発事故による廃業等により脱退者が相次ぎ、6名が脱退した。

その結果、会員は期初181名から4名減少し、177名となった。また、賛助会員は期初11名から2名が脱退し、9名となった。

(2) 公益認定申請に関する検討

会員との懇談により公益認定申請に対する会員の意向把握に努め、当協会の今後のあり方についても理事会内で意見交換を行った。

(3) 事務所の移転について

3月15日、日本中央競馬会本部ビルから当協会の業務に関係の深い競馬関連団体が所在している日本中央競馬会新橋分館に移転した。このことにより当該関係団体との緊密な連携関係が構築された。

9. 東日本大震災に被災された会員への義援金募集

3月11日に発生した東日本大震災に被災された会員への義援金として会員等へ募金を呼びかけたところ、31件、808千円の善意が寄せられた。特に被害の大きかった福島県、宮城県の被災会員7会員に贈呈した。

義援金は、当協会の経理と区分して処理した。なお、監事による監査を受けている。

Ⅲ 総務全般に関する状況

1. 会員の状況

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
平成22年12月31日	93	11	34	24	19	181	11
増	1		1			2	
減	3	1	2			6	2
平成23年12月31日	91	10	33	24	19	177	9

2. 役員に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤の別	備考
会長理事	小沢一郎	非常勤	平成23年2月25日退任
会長理事	武田暁朗	非常勤	平成23年3月31日就任
副会長理事	和田隆一	常勤	
副会長理事	荻野豊	非常勤	北海道支部長
常務理事	二階堂純信	常勤	
理事	飯田正剛	非常勤	
理事	高橋司	非常勤	
理事	諏訪豊蔵	非常勤	東北支部長
理事	沖崎誠一郎	非常勤	関東支部長
理事	中内田克二	非常勤	関西支部長

理事	柏木 務	非常勤	九州支部長
理事	赤松 勇二	非常勤	
監事	安達 正奉	非常勤	
監事	倉澤 景晴	非常勤	

注1. 備考欄に就任の特記がない者は、平成23年2月25日に選任された。

注2. 現理事の任期は、平成25年2月24日まで。

3. 職員に関する事項

前期末職員数	増	減	今期末職員数
3名	2名	2名	3名

4. 会議の開催について

(1) 総会の開催

1) 通常総会を次のとおり開催した。

年月日：平成23年2月25日

場所：日本中央競馬会本部ビル7階大会議室

議題：① 平成22年度事業報告及び収支決算について
 ② 平成23年度事業計画及び収支予算について
 ③ 平成23年度会費等の額及び徴収の方法について
 ④ 理事の選任について

2) 臨時総会を次のとおり開催した。

年月日：平成23年3月31日

場所：日本中央競馬会本部ビル4階 会議室

議題：理事の選任について

(2) 理事会の開催

1) 第1回理事会

年月日：平成23年2月25日

場所：日本中央競馬会本部ビル7階第1会議室

議題：① 平成23年度通常総会付議事項について
 ② 平成23年度業務委託費の配分方法について

2) 第2回理事会について

年月日：平成23年2月25日

場所：日本中央競馬会本部ビル7階第1会議室

議 題： 役員を選任について（互選）

3) 第3回理事会

年月日： 平成23年3月31日

場 所： 日本中央競馬会本部ビル4階 会議室

議 題： 役員を選任について（互選）

4) 第4回理事会

年月日： 平成23年6月2日

場 所： 日本中央競馬会新橋分館 8階会議室

議 題： ① 「役員報酬等の支給に関する規程」の一部改正
② 平成23年度収支予算の補正について
③ 生産育成技術者海外派遣事業（短期研修）について
④ JRAとの「育成等に関する懇談会」の要望事項について

5) 第5回理事会

年月日： 平成23年12月2日

場 所： 日本中央競馬会本部ビル7階 第1会議室

議 題： ① 平成23年度予算補正について
② 平成24年度通常総会の開催について
③ 平成24年度暫定予算について

(3) 書面理事会

1) 第1回書面理事会(平成23年7月7日)

入会の承認について（森本ステーブル）

2) 第2回書面理事会(平成23年10月4日)

入会の承認について（株式会社グロースフィールド）

(4) 日本中央競馬会との「平成23年度育成等に関する懇談会」の開催

年月日： 平成23年6月3日

場 所： 日本中央競馬会六本木事務所9階 第4会議室

議 題： ① 育成技術表彰の維持と充実
② 育成牧場の基盤強化対策
③ 競馬ファンへの育成情報の提供
④ 育成技術者の確保 ほか

5. 法人検査、監査について

(1) 農林水産省による法人検査

1) 現物検査

年月日：平成23年7月29日

場所：日本中央競馬会新橋分館4階 競走馬育成協会事務室

内容：現金、会計書類その他

2) 書類検査

年月日：平成23年8月19日

場所：日本中央競馬会新橋分館4階 競走馬育成協会事務室

内容：主として平成22年度業務について

(2) 日本中央競馬会による監査： 該当なし

(3) 地方競馬全国協会による監査：

年月日：平成23年7月22日

場所：日本中央競馬会新橋分館8階 会議室

内容：競走馬生産振興事業

軽種馬経営高度化指導研修事業（21年度）

Ⅲ. 軽種馬経営高度化指導研修事業（人材養成支援）

（22年度）

なお、公認会計士から、会計経理に関する指導を受けた（平成24年1月10日）。

6. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産状況の推移

(単位：千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
前期繰越収支差額	15,047	11,288	10,526	11,180	9,922
当期収入合計	83,184	85,923	81,102	120,211	120,842
当期支出合計	96,943	86,685	80,448	121,468	126,203
当期収支差額	△3,759	△762	654	△1,257	△5,361
次期繰越収支差額	11,288	10,526	11,180	9,922	4,561
資産合計	49,635	49,211	51,192	45,979	41,102
負債合計	37,476	38,126	39,686	37,701	34,118
正味財産	12,159	11,085	11,506	8,277	6,984

貸借対照表総括表

平成23年12月31日現在

(単位:円)

目	一般会計	軽種馬生産育成 強化資金利子 補給事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 担い手事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 就業促進会計	内部取引消去	合計
I 資産の部						
1 流動資産						
現金	18,313	0	0	0	0	18,313
預金	27,041,608	3,507,087	146,036	97,357	0	30,792,088
未収金	442,750	0	0	0	0	442,750
流動資産合計	27,502,671	3,507,087	146,036	97,357	0	31,253,151
2 固定資産						
(1)						
退職給付等引当資産	7,276,626	0	0	0	0	7,276,626
特定預金	0	0	1,897,925	280,963	0	2,178,888
-	7,276,626	0	1,897,925	280,963	0	9,455,514
(2)その他固定資産						
什器備品	24,402	0	0	0	0	24,402
ソフトウェア	140,000	0	0	0	0	140,000
電話加入権	229,320	0	0	0	0	229,320
-	393,722	0	0	0	0	393,722
-	7,670,348	0	1,897,925	280,963	0	9,849,236
-	35,173,019	3,507,087	2,043,961	378,320	0	41,102,387
II 負債の部						
1 流動負債						
未払金	22,144,677	3,507,087	146,036	97,357	0	25,895,157
預り金	796,863	0	0	0	0	796,863
賞与引当金	148,899	0	0	0	0	148,899
-	23,090,439	3,507,087	146,036	97,357	0	26,840,919
2 固定負債						
退職給付引当金	1,170,000	0	0	0	0	1,170,000
役員退職慰労引当金	6,106,626	0	0	0	0	6,106,626
-	7,276,626	0	0	0	0	7,276,626
-	30,367,065	3,507,087	146,036	97,357	0	34,117,545
III 正味財産の部						
1 指定正味財産						
受取補助金等	0	0	1,897,925	280,963	0	2,178,888
-	(0)	(0)	(1,897,925)	(280,963)	(0)	(2,178,888)
-	0	0	1,897,925	280,963	0	2,178,888
2 一般正味財産						
-	4,805,954	0	0	0	0	4,805,954
-	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
-	4,805,954	0	1,897,925	280,963	0	6,984,842
-	35,173,019	3,507,087	2,043,961	378,320	0	41,102,387